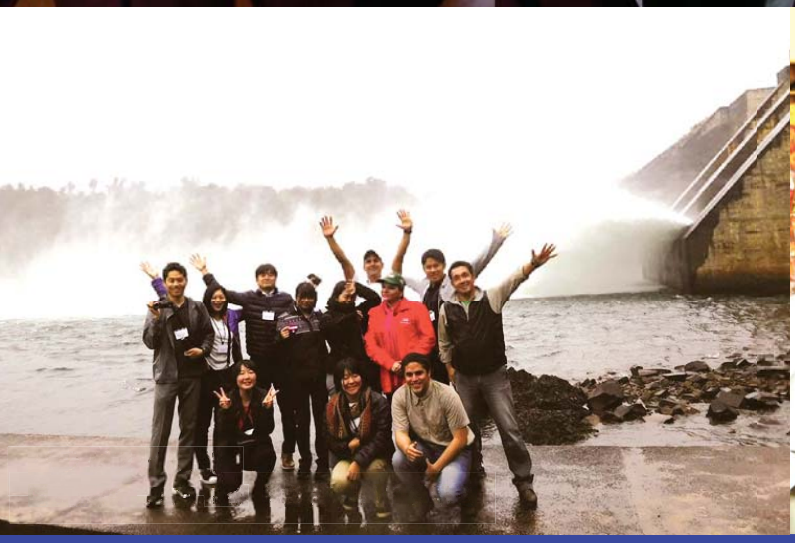
五感で学ぶ体験！



JICA 中部 2019 年度 教師海外研修

受講者募集中
5／14（火）
申込書必着

海外渡航期間：7/27～8/9（14 日間）

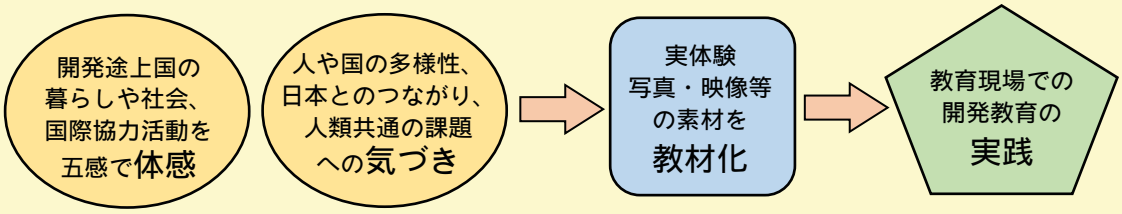
パラグアイ

主催 ： 独立行政法人国際協力機構 中部センター（JICA 中部）
後援 ： 外務省、文部科学省、
（申請中） 愛知県教育委員会、三重県教育委員会、岐阜県教育委員会、静岡県教育委員会、
名古屋市教育委員会、静岡市教育委員会、浜松市教育委員会

研修の概要

（1）教師海外研修の目的

開発教育・国際理解教育に取り組む教師が、実際に開発途上国を訪問することにより、その現状や国際協力の現場、開発途上国と日本との関係に対する理解を深め、帰国後は、訪問によって得た気づきや素材を教材にして学校現場での授業実践を行い、次代を担う児童・生徒の教育に役立てて頂くことを目的として実施いたします。また、研修終了後も、開発教育・国際理解教育の中核的指導者として活躍いただくことを期待しています。



（2）研修の日程および内容　（諸事情により、変更になる場合があります。予めご了承ください。）

回	日時	内容（予定）
事前研修	6 月 29 日（土）11：00～17：00 6 月 30 日（日）10：00～16：00	●本研修の概要、派遣国・訪問先の説明 ●海外渡航手続き、健康・安全管理等の留意事項の説明 ●研修目標の共有、情報収集・交流の準備、役割分担
パラグアイ現地研修	7 月 27 日（土）～8 月 9 日（金） （14 日間／現地 10 日間）	●開発途上国の現場体験、教材の素材収集 ●気づきの共有、受講者同士の学び合い
事後研修 ①	8 月 31 日（土）10：00～18：00	●現地研修の気づきや素材の教材化 ●上記教材を使った学習者主体の授業案の作成
9月～1月：各自、学校の授業などで実践！ 10 月、12 月の 2 日間（休日）：実践のフォローアップ（自由参加）		
事後研修 ②	2 月 15 日（土）10：00～18：00	●実践の内容、成果と課題の共有 ●フォーラムでの報告の準備
実践報告フォーラム	2 月 16 日（日）10：00～17：00	●実践の報告（ポスターセッション） ●有志チームによる開発教育体験ワークショップ ●海外研修の報告 ●実践者つながりワークショップ

※ 事後研修②と実践報告フォーラムは、開発教育指導者研修（実践編）受講者と共同で行います。

（3）研修の場所（国内）

JICA 中部 なごや地球ひろば 2 階セミナールーム
http://www.jica.go.jp/nagoya-hiroba/information/access.html

（4）研修のファシリテーター

（特活）NIED・国際理解教育センター
http://nied.love-hug.net/

※ 過去の教師海外研修の内容は、下記 JICA 中部のウェブサイトを参照。
⇒ https://www.jica.go.jp/chubu/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/

「JICA中部 教師海外研修」で検索　JICA中部 教師海外研修　検索

教師海外研修の１年間

6月　事前研修

チームメンバー同士知り合い、訪問先で十分に学び、その結果を教材につなげるための準備を、参加型学習で行います。

7～8月　パラグアイ現地研修

パラグアイの首都アスンシオンから郊外の地方都市や農村へ。JICA のプロジェクトサイト、学校、日本人居住区などを訪れます。

8月　事後研修 ①

現地で得た気づきや素材をもとに教材を作り、授業案を仲間と考え、研修成果を十分に活かせる授業実践へ。

9～1月　授業実践

世界の人々が共にいきるために、児童・生徒が、何を知り、どう行動するようになるとよいか、海外での経験と国内での研修の成果をいかんなく発揮します。

2月　事後研修 ②　＋　実践報告フォーラム

「現地で何を学び、どう授業に生かしたか」を他の研修受講者や一般の方に伝え、次へのつながりを作ります。

募集要項

(1) 応募資格　次の要件をすべて満たす方に応募資格があります。

① 応募および研修受講時点で愛知県、岐阜県、三重県、静岡県の国公立、私立の小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、高等専門学校の教員（児童・生徒に開発教育・国際理解教育を継続的に実践できる立場にある教員）で、所属する学校の校長の推薦があること。

② 原則、JICA が実施している教師海外研修、JICA 海外協力隊、専門家、国際協力レポーター（ODA 民間モニター）等 JICA から海外に派遣された経験がないこと。

(2) 参加条件　次の条件を満たす方に参加資格があります。

① 教師海外研修の趣旨・目的を十分理解し、同研修の実施および以後 JICA が実施する開発教育支援事業に協力可能であること。

② 2019 年度中に授業やクラブ活動で、教師海外研修の経験を活かした開発教育・国際理解教育を実践できること。

③ 国内で実施される研修・説明会および現地研修の**全行程**に参加可能であること。

④ 派遣国の事情（道路状況や衛生環境等）を勘案した上で、全研修行程に参加するに耐えうる健康状態であること。

⑤ 帰国後、所属長の承認を得たうえで、1）現地研修に関する報告書を提出すること、2）所属校における授業実践内容についての実践報告書を提出すること、3）実践報告フォーラムで実践内容を発表すること、4）これら提出物を報告書冊子や JICA ウェブサイトなどで学校名、氏名とともに一般公開されることに同意すること。

⑥ 本研修に関わる連絡・情報共有のため、E メールでの連絡が可能な方。

⑦ 受講者・スタッフ間のメーリングリストなどでの情報共有に賛同いただけること。

(3) 募集人数　１０名程度　※応募書類および面接に基づき選考を行います。

(4) 応募方法・応募締切・選考結果通知

① 必要事項をすべて記入した所定の申込書と、別途設問①～④の回答を A 4 版 2 ページ以内にまとめた文書を同封のうえ、事務局（NIED・国際理解教育センター）に、郵送または持参で提出してください。

② 応募締切は、5 月 14 日（火）必着です。E メールにて応募書類を受付した旨通知します。

③ 書類審査および面接審査を行い、最終選考を経て 5 月末までに選考結果を E メールにて通知いたします。

④ 応募受付や選考結果の通知がない場合は事務局へお問合せください。

(5) 面接審査

① 応募者全員に対し、右表のとおり面接審査を実施します。第 1 および第 2 希望の日程を選び、申込書に選択番号と日程、所定の時間帯の中で希望する時間帯を記入してください（どの時間帯でも差し支えなければ時間帯の記入は不要です）。

② ご希望を踏まえつつ、面接会場および日時については、JICA 中部が決定いたします（面接時間は 20 分程度を予定）。

選択番号	審査会場	日程	時間帯
1	JICA 中部	5 月 19 日（日）	10:00－17:00
2	JICA 中部	5 月 22 日（水）	17:00－19:00
3	JICA 中部	5 月 24 日（水）	17:00－19:00
4	JICA 中部	5 月 25 日（土）	10:00－17:00
5	JICA 中部	5 月 26 日（日）	10:00－17:00

④ 面接会場および時間の詳細について、5 月 16 日（木）までに、事務局より E メールまたは電話にて通知しますので、申込書に記載のある E メールおよび電話での受信確認をしてください。

(6) その他注意事項

① 年休・研修（職専免）等、研修中の扱いは所属先の判断によりますので、ご自身でご確認ください。

② 本研修では、JICA における労災保険等の適用はありません。所属先の業務出張扱いで参加される場合は、各所属先の責任において、参加期間中の公務上災害に対する補償措置を行ってください。

③ JICA は出張命令依頼書等の発出は行いません。

④ 現地の治安状況等により、現地研修の期間を変更したり、中止となることがあります。予めご了承ください。

⑤ 研修の対象者として決定された場合においても、他の参加者に迷惑をかける方、決められた活動（研修・フォーラムへの参加、報告書提出など）に参加する意思がないと判断される方については、国内研修中、海外研修中を

問わず、研修対象者としての資格を失います。研修対象者として資格を失った場合、海外研修中にあっては、速やかに日本に帰国させ、帰国に係る旅費、滞在費、キャンセル料など全額当該者本人が負担することになります。

⑥ 『開発教育指導者研修（実践編）』を併せて受講することで、学習者主体の授業実践力が高まり、教師海外研修の経験をより活かすことができます。申込書当該欄に「希望する」をチェックすれば自動で申し込まれます。

⑦ 面接にかかる旅費および申込書の送料は自己負担となります。またご提出いただいた申込書（写真を含む）は返却しませんので、予めご了承ください。

⑧ 申込書に虚偽の記載内容が含まれている場合は、選考後でも参加資格が取り消しになることがあります。

（7）参加費用

参加者の個人負担とJICAの負担は下表のとおりです。

区分	個人負担経費	JICA負担経費
国内での研修や準備活動	・面接にかかる交通費 ・飲食費 ・パスポート取得にかかる費用 ・予防接種料（必要に応じて） ・その他個人的性格の費用	・当該研修にかかる宿泊費（該当者のみ）※3 ・当該研修にかかる交通費 （自宅最寄り駅・バス停から会場最寄り駅までのJICA規定で算出した往復交通費） ・空港までの交通費 ・空港使用税、査証取得料
海外研修	・現地での食費 ※1 ・現地での宿泊費 ※1、※2 ・追加保険の加入費用 ・その他個人的性格の費用	・往復渡航費 ※2 ・海外旅行保険費（JICA規定分） ・現地視察に必要な費用（車両傭上、通訳、入場料） ・海外での空港使用税・出国税

※1：現地での食費と宿泊費（10日間分）は合わせて10万円程度を目安とお考えください。

※2：現地での宿泊施設および往復航空便については安全面等を考慮しJICAで手配決定することを予めご了承ください。

※3：公共交通機関の営業距離が50km以上の方はJICA負担で宿泊ができます。宿泊の可否はJICAで決定いたします。

（8）報告書の提出（必須）

本研修では、次の報告書を提出していただきます。

① 海外研修報告書　　提出日：2019年8月31日（土）必着

② 実践報告書　　提出日：2020年2月11日（火・祝）必着

応募・問合せ先

申込書は必ず事務局（下記住所）へお送りください。

申込書はJICAウェブサイト http://www.jica.go.jp/chubu/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/からダウンロード可。

［教師海外研修 事務局］

★特定非営利活動法人 NIED（ニード）・国際理解教育センター　JICA研修係　（担当：川合）

〒460-0004 愛知県名古屋市中区新栄町二丁目3番地 YWCAビル7階

E-mail：nied@love-hug.net（問い合わせはEメールでお願いします）

TEL：070-5333-5566　　FAX：052-766-6440

その他JICA開発教育・国際理解教育支援関連 問合せ先

★ 総合案内（愛知県の方）

独立行政法人国際協力機構 中部センター(JICA中部)

連携推進課　開発教育支援事業担当

TEL：052-533-0120（課直通）　FAX：052-564-3751

E-mail：cbictpd@jica.go.jp

★ 岐阜県の方

JICA岐阜県デスク　TEL：058-263-8069

E-mail：jicadpd-desk-gifuken@jica.go.jp

★ 三重県の方

JICA三重県デスク　TEL：059-223-8003

E-mail：jicadpd-desk-mieken@jica.go.jp

★ 静岡県の方

JICA静岡県デスク　TEL：054-202-0931

E-mail：jicadpd-desk-shizuokaken@jica.go.jp

教師海外研修の3つのウリ！

1. 観光では見られない開発途上国の国際協力や学校などの現場を訪問し、現地の人・協力する日本人・子ども達などと交流や意見交換ができます！

2. チームで共有や収集した現地での気づきや情報を教材化し、授業に活かせます！
チーム活動を通して、共に学び合う一生の仲間づくりができます。
※学び合いやチームビルディングを支援するファシリテーターが同行します。

3. アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）にもつながる参加型の開発教育・国際理解教育のプログラムづくりを学べます。
※同時開催の「JICA 中部開発教育指導者研修（実践編）」を受講するとさらに効果があります。

2018年度受講者の声

「カテウラの未来」
カテウラ地区の小学校の校長先生、NGO 団体 Juvensur を立ち上げたカテウラ地区出身の青年達、ミタイ・ミタクニャイ子ども基金の齋藤さんとの集合写真。カテウラ地区の子ども達のために活動されている思いに感動した。

「言葉の壁を越えた思い」
スペイン語が理解できなさ過ぎて、壁を感じるとともにもどかしかったホームステイ。それでも、お別れに書いた拙い手紙で、言葉は合っていたか分からないけど、思いが伝わったことは確信できた。

この研修の良さは一言で表せば、『生きた学びができる』ということだと思います。現地の人々、環境、文化や習慣、価値観などに直接触れることができたのは、大きな学びでした。
［30 代男性・小学校教員］

実際に海外で現場を知っている現状の良さも困難さも経験している人からたくさんお話を聞けたことは、自分自身にとっても授業を実践していく上でもとても良かった。
［20 代女性・小学校教員］

現地での貴重な体験や学び合うことのできる仲間ができたことは、私自身の一生の財産になった。このことにより、今後の実践への意欲が湧いた。
［30 代女性・小学校教員］

肯定的な出会いでスタートすることの大切さを、身を以て体感できた。国際理解教育だけでなく、新しい人やモノと出会う時にもとても重要だとわかった。
［20 代男性・高校教員］

国際理解教育や参加型授業を行うことについて不安があり、中々踏み出すことができなかったが、今回の研修を通して授業をする上での手だてをたくさん知ったことで、自信がついた。
［20 代女性・小学校教員］

受講者同士や訪問先の方々との固い絆を感じられたのは、「よりよい社会を作りたい」「子どもたちに希望をもって生きてほしい」といった“共通の信念”がどの人にもあったからだと思う。
［30 代女性・高校教員］